

【協議事項】

1 福岡県警察の組織に関する規則等の一部改正（案）について

（警務部）

警察本部から「令和8年春の組織等の改正及び地方警察官の増員に伴い、関係所属の分掌事務、警察本部及び警察署の定員を改めるため、「福岡県警察の組織に関する規則」及び「福岡県警察職員の配置定員に関する規則」を一部改正する。御審議をお願いする。」旨の報告があった。

公安委員から「警察署から警察官36人が削減され、警察本部に増員となるが、警察署の力が削がれることにならないのか。」旨の発言があり、警察本部から「治安を維持するためには、どこの警察署も万遍なく人員を配置するのではなく、本部に人員体制を集中して、必要な警察署への支援を厚くしていかなければならないと考えている。」旨の説明があり、警察本部から「警察署については、人員を削減するだけではなく、業務も削減して警察本部に集中させている。」旨の説明があった。

公安委員から「民間企業でも本社に人員と業務を集中させて、各支店への支援を手厚くしている動きがある。」旨の発言があり、警察本部から「我々も民間企業の取組を参考にしている。」旨の説明があった。

公安委員から「警察本部と警察署の横の連携がスムーズになるように取組を進めて欲しい。」旨の発言があり、警察本部から「課題となっているトクリュウの問題を始め、組織一丸となって、諸課題にしっかりと対応していく。」旨の説明の後、本件は了承された。

【報告事項】

1 福岡県警察将来ビジョン（F-vision）の策定について

（警務部）

警察本部から「人口減少・少子高齢化が加速度的に進行し、治安情勢が一層多様化・複雑化していく中、県警察では、社会の変容等に対応できる持続可能な組織を創出するため、昨年4月1日に「F-vision 検討委員会」を設置し、2040年の福岡県警察の在るべき姿の実現に向けた検討を進め、この度、福岡県警察将来ビジョン（F-vision）を策定した。F-visionでは、「未来へつなぐ、守る力。」というスローガンのもと、時代の変化を的確に捉えながら、社会の安全・安心を守る力を次の世代へとつないでいくため、将来の在るべき姿として「福岡（まち）」、「職員（ひと）」、「県警（そしき）」の3つの大きな目標となる柱を設定した。今後は、分野別推進戦略に沿って各施策を進めていくこととしており、その具体的施策の成果や実施状況

を分析し、5年ごとに効果検証を行い、社会構造の変化、地域情勢、職員の意見などの部内外の変容を踏まえた上で見直しを行っていく予定としている。」旨の報告があった。

公安委員から「部外に公表するのか。県警職員にも説明はするのか。」旨の発言があり、警察本部から「2月中旬に公表をし、職員向けには掲示等の方法により浸透を図る。」旨の説明があった。

2 留置管理課による警察署支援体制の構築について

(総務部)

警察本部から「本部留置施設を非常設化した上で、その定員数等を春日分室に移し、警察署支援体制等を拡充することにより、警察署留置担当官の負担軽減及び警察署間の業務負担の平準化を図ることとした。全警察署に対する支援として、これまで警察署間で行っていた委託留置の調整を全て本部留置管理課で行うこととしており、対面監視についても、これまで以上に警察署からの依頼に対して柔軟に対応していく。」旨の説明があった。

公安委員から「護送や対面監視は増えているのか。」旨の発言があり、警察本部から「コロナ禍前と同数程度になっているが、複数の留置施設の非常設化によって、留置担当官の一人当たりの負担率は右肩上がりとなっている。」旨の説明があった。

3 警察官採用試験の令和7年度実施結果及び令和8年度実施計画について

(警務部)

警察本部から「令和7年度警察官採用試験の実施結果については、244人の採用予定数に対し、受験者数は1,739人、最終合格者は391人、競争倍率は4.4倍となり、いずれも前年度比で上回ったものの、採用情勢は非常に厳しい状況が続いている。昨年度新設した社会人経験者採用試験については、受験者数は134人、最終合格者は23人、競争倍率は5.8倍という結果で、想定よりも多くの受験者を獲得し、警察官A・B採用試験よりも高い競争倍率となった。令和8年度の実施計画については、警察官Aの採用予定数は120人、警察官Bは126人、警察官Cは14人、社会人経験者は16人としている。警察組織の基盤は「人」であり、多様で有為な人材の確保は警察組織の将来を左右する重要課題であり、組織一丸となった採用募集活動を図っていく。」旨の説明があった。

公安委員から「他の都道府県警察から当県警察を受験した人はいるのか。」旨の発言があり、警察本部から「昨年度は、社会人経験者A採用試験で、警察官の受験者が3人いた。」旨の説明があった。

公安委員から「民間企業でも中途採用を活発にしているが、社会人経験のある警察官につい

ても、巡査からスタートするのか。」旨の発言があり、警察本部から「警察官としての基礎から育成していく必要があることから巡査を拝命するが、新卒警察官等とは給与面で差をつけようと調整をしている。」旨の説明があった。

公安委員から「警察官Aと警察官Bの競争倍率を比較すると、大卒であるAの倍率が低いのは、人材が民間企業に流れているとみてもいいのか。」旨の発言があり、警察本部から「全国的にも警察官Bに比べて警察官Aの倍率が低い傾向にあるが、当県の警察官Aの競争倍率は全国的に見ると高めである。」旨の説明があり、警察本部から「高卒の受験者は職業の選択肢が限られているが、大卒の受験者は選択肢が広がり、民間企業との取り合いになっている状況にあると考えられる。」旨の説明があった。

4 令和7年度情報管理業務監査及び情報セキュリティ監査の実施結果について

(警務部)

警察本部から「警察情報システムの適正な運用と情報セキュリティの確保を目的に、昨年6月から11月までの間、全所属に対して情報管理業務監査及び情報セキュリティ監査を実施した。良好だった事項としては、業務に関する独自資料の作成・教養等があり、改善を必要とする事項は認められなかった。また、指導を行った事項としては、オフラインパソコンのウイルス対策パターンファイルの未更新等であり、指導した結果、すでに改善されていることを確認している。」旨の報告があった。

公安委員から「ウイルス対策ソフトは、オンライン更新をしているのか。」旨の発言があり、警察本部から「今回指導をしたオフラインパソコンの件については、オンライン更新ができないことから、これまでは所属担当者が、ウイルス対策のパターンファイルが更新された際に自分から同ファイルを取得して更新作業をしていたことから失念をすることがあったが、今後は、最新版のパターンファイルになった際の更新作業を確実に実施させるため、情報管理課から通知をすることとした。」旨の説明があり、警察本部から「スタンドアロンパソコンは、パターンファイルの更新を職員がしなければならないことから、急に予定が入った場合等に更新作業を忘れてしまうこともあった。オンラインパソコンに比べて情報漏洩のリスクが少ないことから、オンラインパソコンに比べて情報セキュリティに対する危機感が低いことも原因にあると考えている。」旨の説明があった。

5 ベトナム人グループによる窃盗（万引き）事件の捜査終結について

(刑事部)

警察本部から「中央警察署ほか6警察署、捜査第三課及び広島県警察は、氏名不詳者らと共謀の上、令和7年2月、福岡県内のドラッグストアにおいて、医薬品等を万引きしたとし

て、2月20日以降、ベトナム国籍の無職の男性ほか4人を順次逮捕し、捜査の結果、万引き事件等22件、被害総額約211万円相当を確認し、捜査を終結した。」旨の報告があった。

公安委員から「被疑者らの在留資格は何か。」旨の発言があり、警察本部から「1人は技能実習、3人は不法残留である。」旨の説明があった。

6 殺人等事件被疑者の逮捕について

(暴力団対策部)

警察本部から「大牟田警察署、暴力団犯罪捜査課及び佐賀県警察ほか2県警察は、平成23年4月、対立抗争相手であった被害者らを銃撃し、1人を殺害し、もう1人に重傷を負わせたとして、1月28日及び29日、福岡市早良区在住の元道仁会理事長の男性ほか2人を逮捕した。」旨の報告があった。

公安委員から「事件発生から相当期間が経っているが、証拠が揃ったのか。」旨の発言があり、警察本部から「粘り強く供述証拠等を積み上げた。」旨の説明があった。

7 令和7年度九州管区広域緊急援助隊合同訓練の実施について

(警備部)

警察本部から「大規模災害発生時の迅速・的確な災害警備活動及び部隊の現場対処能力の向上と相互の連携強化を図るため、九州管区警察局及び大分県警察の主催により、2月9日及び10日、大分県大分市所在の施設等において、令和7年度九州管区広域緊急援助隊合同訓練を実施する。」旨の報告があった。

公安委員から「有事の際に、確実な災害対策ができるよう、よろしく願います。」旨の発言があった。